

男女共同参画に関する市民アンケート

令和7年11月
山陽小野田市

アンケートご協力のお願い

市では、男女が対等なパートナーとして社会のあらゆる分野に参画し、共に責任を分かち合うことのできる男女共同参画社会の実現を目指すため、「さんようおのだ男女共同参画プラン」を策定し、様々な施策に取り組んでいるところです。

さて、このたび、男女共同参画に関する意識や実態をお聞きし、今後の施策へ反映するため、標記アンケート調査を実施することといたしました。

この調査は、市内にお住まいの18歳以上の方の中から、無作為に1,000人を抽出させていただき、お願いするものです。

ご回答は、無記名とし、計画策定の基礎資料にのみ活用させていただきます。また、ご回答いただいた集計結果は、ホームページ等で公開させていただきます。

お忙しいところ、誠に恐縮ですが、調査の趣旨をご理解いただき、何卒ご協力くださいますようお願い申し上げます。

◆ ご記入にあたってのお願い ◆

1. 調査の対象となる方は、調査票を郵送させていただいた宛名の方になります。
必ず、ご本人がお答えくださいますようお願いいたします。
2. 回答は、「1つだけ」、「いくつでも」などの指示に従い、別紙回答欄に数字を記入し、
回答が「その他」の場合はさらに具体的内容を記入してください。
3. 記入いただいた回答票は、同封の返信用封筒に入れて、**11月28日(金)までに**投函してください。
4. インターネットからの回答も可能です。下記URLまたは、QRコードからアクセスして回答してください。

5. この調査についてご不明な点やご質問がありましたら、以下にお問い合わせください。

山陽小野田市 協創部
市民活動推進課 人権・男女共同参画室
電話 0836-82-1137

1. 男女の地位の平等について

問1

あなたは、次にあげる分野で男女の地位は平等になっていると思いますか。あなたの気持ちに最も近いものを「ア」から「ク」の分野ごとに1つずつお答えください。

分野 \ 回答	男性の方が非常に 優遇されている	どちらかといえば男 性の方が 優遇されている	平等	どちらかといえば女 性の方が 優遇されている	女性の方が非常に 優遇されている	わからない
ア 家庭生活の中で	1	2	3	4	5	6
イ 就職の機会や職場の中で	1	2	3	4	5	6
ウ 学校教育の中で	1	2	3	4	5	6
エ 地域活動の中で	1	2	3	4	5	6
オ 政治経済活動の中で	1	2	3	4	5	6
カ 法律や制度の面で	1	2	3	4	5	6
キ 社会通念・慣習・しきたりなどで	1	2	3	4	5	6
ク 社会全体として	1	2	3	4	5	6

問2

今後、男女が社会のあらゆる分野でもっと平等になるためには何が重要だと思いますか。次の中からいくつでもあげてください。

- [illegible]

2. 男女の生き方について

問3

「男は仕事、女は家庭」という考え方がありますが、あなたはどのようにお考えですか。次の中から1つだけお答えください。

1. 賛成 → 問 4 へ
2. どちらかといえば賛成 → 問 4 へ
3. どちらかといえば反対 → 問 5 へ
4. 反対 → 問 5 へ
5. わからない → 問 6 へ

問4

問3で「1賛成」「2どちらかといえば賛成」を選んだ方に伺います。その理由は何ですか。次の中からいくつでもあげてください。

1. 日本の伝統的な家族の在り方だと思うから
2. 自分の両親も役割分担をしていたから
3. 男性が外で働いていたほうが、多くの収入を得られると思うから
4. 女性が家庭を守ったほうが、子どもの成長などにとって良いと思うから
5. 家事・育児・介護と両立しながら、女性が働き続けることは大変だと思うから
6. その他（具体的に： ）

問5

問3で「3 どちらかといえば反対」「4 反対」を選んだ方に伺います。その理由は何ですか。次の中からいくつでもあげてください。

1. 男女平等に反すると思うから
2. 自分の両親も外で働いていたから
3. 男性も女性も働いていたほうが、多くの収入を得られると思うから
4. 女性が働いて能力を発揮したほうが、個人や社会にとっていいと思うから
5. 家事・育児・介護と両立しながら、女性が働き続けることは可能だと思うから
6. 固定的な男性と女性の役割分担の意識を押しつけるべきではないから
7. その他（具体的に：_____）

3. 女性の活躍について

問6

社会の中で意思決定の場に女性の参画が少ない理由は何ですか。次の中からあてはまるものをいくつでもあげてください。

1. 家庭、職場、地域における性別役割分担、性差別の意識
2. 男性優位の組織運営
3. 家庭の支援・協力が得られない
4. 女性の能力開発の機会が不十分
5. 女性の活躍を支援する仕組みの不足
6. 女性側の積極性が十分でない
7. 女性の参画を積極的に進めようと意識している人が少ない
8. その他（具体的に： ）
9. わからない

問7

総務省の「令和3年社会生活基本調査」によると、夫婦共働き世帯において、1日の中で、育児や介護、家事などに費やす時間を男女別に比較すると、男性は43分、女性は4時間18分となっています。育児や介護、家事などに女性のほうが多く時間を費やしていることが、職業生活における女性の活躍が進まない要因の一つだという意見がありますが、あなたはごどう思いますか。次の中から1つだけお答えください。

1. そう思う →問8へ
2. どちらかといえばそう思う →問8へ
3. どちらかといえばそうは思わない →問9へ
4. そうは思わない →問9へ

問 8

問7で「1.そう思う」「2.どちらかといえばそう思う」を選んだ方に伺います。育児や介護、家事などに費やす時間を男女間でバランスのとれたものとし、職業生活における女性の活躍をさらに推進するためには、特にどのような支援が必要だと思いますか。次の中から1つだけお答えください。

1. 長時間労働慣行の是正やテレワークの推進など、育児や介護、家事などに用いることができる時間を増やすための勤務環境の整備
2. 育児や介護のための休業制度や短時間勤務制度など、仕事との両立を支援するための施策の整備
3. 保育施設や介護施設の整備など、育児や介護をサポートする設備やサービスの整備

問9

あなたは、今後どのような分野で女性の参画が進むべきだと思いますか。次の中からいくつでもあげてください。

1. 閣僚（国務大臣）、都道府県知事、市町村の首長
2. 国、県や市町村議会の議員
3. 国、地方公共団体の審議会等委員
4. 国、地方公共団体の管理職
5. 企業の管理職
6. 企業の技術者・研究者
7. 起業家
8. その他（具体的に：

4. 女性と仕事について

問10

一般的に女性が職業をもつことについてどう思いますか。次の中から1つだけお答えください。

1. 女性は職業をもたないほうがよい
2. 結婚するまでは職業をもつほうがよい
3. 子どもができるまでは職業をもつほうがよい
4. 子どもができてもしっかりと仕事をするほうがよい
5. 子どもができたら仕事を辞め、大きくなったら再び仕事をもつほうがよい
6. その他（具体的に：_____）
7. わからない

問12は現在就業していない女性の方だけにおたずねします。

問 11

今後就業するとしたら、どのような働き方を希望しますか。次の中から1つだけお答えください。

1. 正社員でフルタイム勤務
2. 正社員で短時間勤務
3. パート、アルバイト
4. 派遣社員
5. 経営者・使用者
6. 自由業
7. その他（具体的に：
8. 就業したくない
9. わからない

問13は過去に就業経験があり、現在就業していない女性の方だけにおたずねします。

問 12

退職したとき、再び仕事を始めたいと思っていましたか。次の中から1つだけお答えください。

1. すぐにも仕事を始めたいと思っていた
2. 時期がきたら（子どもがある程度の年齢になる等）、仕事を始めたいと思っていた
3. 時期は決めていないが、いずれ仕事を始めたいと思っていた
4. 再び仕事をするつもりはなかった
5. わからない

5. 仕事と家庭・地域活動の両立について

問13

仕事と家庭生活または自治会やボランティアなどの地域活動とのバランスについて、1～6の中であなたの「理想」に最も近いものを1つだけお答えください。また、「現実」に最も近いものを1つだけお答えください。

							わからない
		家庭生活または地域活動よりも、仕事に専念する	家庭生活または地域活動よりも、仕事を優先させる	家庭生活または地域活動と仕事を同じように両立させる	仕事よりも、家庭生活または地域活動を優先させる	仕事よりも、家庭生活または地域活動に専念する	
ア	理想	1	2	3	4	5	6
イ	現実	1	2	3	4	5	6

問 14

今後、男性が女性とともに家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくためにはどのようなことが必要だと思いますか。次の中からいくつでもあげてください。

1. 男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと
2. 男性が家事などに参加することに対する女性の抵抗感をなくすこと
3. 夫婦や家族間でのコミュニケーションをよく図ること
4. 周囲の人が、夫婦の役割分担等についての当事者の考え方を尊重すること
5. 社会の中で、男性による家事などについても、その評価を高めること
6. 男性による育児・家事などについて、職場における上司や周囲の理解を進めること
7. 労働時間の短縮や休暇制度、テレワークなどを利用した多様な働き方を普及することで、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること
8. 男性が家事などに関心を高めるよう啓発や情報提供を行うこと
9. 国や地方自治体などの研修等により、男性の育児・家事などの技能を高めること
10. 男性が育児・家事などを行うための、仲間（ネットワーク）作りを進めること
11. 男性が相談しやすい窓口を設けること
12. その他（具体的に： ）
13. 特に必要なことはない

6. 防災・災害復興対策について

問 15

防災・災害復興対策についてどのようなことが必要だと思いますか。次の中からいくつかもあげてください。

1. 男女別のトイレ、更衣室、洗濯物干場といった避難所の設備の整備
2. 避難所運営の責任者に男女がともに配置され、避難所運営や被災者対策に男女両方の視点が入ること
3. 女性用品など性別に応じて必要な物資に対する備えやニーズの把握、支給する際の配慮
4. 災害対策本部に男女がともに配置され、対策に男女両方の視点が入ること
5. 妊産婦へのサポート体制などの災害時の救急医療体制
6. 防災会議等に男女がともに参画し、地域防災計画に男女両方の視点が入ること
7. 被災者に対する相談体制
8. その他（具体的に：

7. 性に関連することについて

問16

「好きになる相手、性的対象が誰であるか」、「自分の性別をどう認識するか」など、性のあり方は多様であり、一人ひとり違いますが、あなたは、今まで自分の性のあり方（性自認、性的志向）について悩んだことはありますか。次の中から1つだけお答えください。

1. ある
2. ない

問17

女性に対する暴力の根絶を図るため、対策が必要だと考えるのはどれですか。次の中からあてはまるものをいくつでもあげてください。

1. 配偶者や元配偶者などからの暴力、いわゆるDV
2. 交際相手からの暴力、いわゆるデートDV
3. つきまといや待ち伏せなどのストーカー行為
4. 強制的性交等や強制わいせつ、痴漢、盗撮などの性犯罪や性暴力
5. 児童買春や性的虐待、児童ポルノなど、子どもに対する性犯罪や性暴力
6. 売春や買春
7. 暴力や脅迫などの手段で売春や労働を強要される、人身取引
8. セクシュアルハラスメント、いわゆるセクハラ
9. テレビや雑誌、ゲーム、ビデオ、インターネットなどの性表現や暴力表現
10. インターネットやSNSを介した出会いをきっかけとした性被害
11. アダルトビデオ出演被害やリベンジポルノなど、本人の意に反した性的な映像の流布

問18

女性に対する暴力やさまざまな悩みなどに関する相談窓口について、あなたが知っているものを次の中からいくつでもあげてください。

1. DV相談ナビ#8008・はれれば
2. DV相談プラス
3. 性犯罪・性暴力被害者のためのワンストップ支援センター全国共通番号#8891・はやくワンストップ
4. 性暴力相談に関するSNS相談、いわゆるCure time・キュアタイム
5. 性犯罪被害相談電話に係る全国共通番号#8103・ハートさん
6. ひきこもり地域支援センター
7. 女性の人権ホットライン
8. 自殺対策相談窓口
9. こころの健康相談統一ダイヤル
10. ハラスメント悩み相談室
11. 警察相談専用電話#9110
12. 男女共同参画センター・女性センター
13. 知っているものはない

問19

相談窓口の認知度を向上させるためには、どのような方法による周知が効果的だと思いますか。次の中からいくつでもあげてください。

1. テレビ・ラジオ
2. 新聞・雑誌
3. ポスター・リーフレット
4. インターネット・SNS
5. 公共施設や行政機関による紹介
6. 病院などの医療機関による紹介
7. 学校における周知

8. 市への要望について

問20

「男女共同参画社会」を形成していくため、今後、市に対してどのような取組を望みますか。次の中からあてはまるものをいくつでもあげてください。

1. 男女平等、相互理解・協力についての普及・啓発を進めること
2. 政策・方針決定過程へ女性を積極的に登用すること
3. 女性の学習の場を充実し、女性のリーダーを養成すること
4. 男女の生き方に関する情報提供や交流の場、相談、教育などの機能を整備すること
5. 学校教育の場で、男女平等や相互理解のための学習を充実すること
6. 保育所、学童保育などの施設・サービスを整備すること
7. 介護施設、サービスを整備すること
8. 女性の進出が少ない分野への進出を促すための取組を行うこと
9. 労働時間の短縮や在宅勤務の普及など男女共に働き方の見直しを進める
10. 育児や介護中であっても仕事が続けられるように支援する
11. 育児や介護などでいったん仕事を辞めた人の再就職を支援する
12. その他（具体的に：

問21

男女共同参画社会の実現のために、ご意見・ご要望がありましたら、回答票にご自由にお書きください。

ご回答を統計的に分析するために、あなた自身のことをおうかがいします

F1 差し支えなければ、あなたの戸籍上の性別を教えてください。

《別紙の回答票に数字を記入してください。（以下全ての質問も同様）》

1. 男性 2. 女性

F2 あなたのお年は満でいくつですか。

1. 18～19歳 2. 20代 3. 30代 4. 40代
5. 50代 6. 60代 7. 70代以上

F3 あなたの仕事についておうかがいします。あなたはの中のどれに当たりますか。1つだけお答えください。どれに当たるかわからない場合には、8と回答し、「その他」の欄に具体的にお書きください。

1. 役員を含む、正規の職員・従業員
2. 期間従業員、契約社員、派遣社員を含む、非正規の職員・従業員
3. 自分で、または共同で事業を営んでいる自営業主、自由業
4. 家族従業者・家族が営んでいる事業を手伝っている者
5. 主婦・主夫 6. 学生
7. 無職 8. その他（ ）

F4 あなたは結婚していますか。1つだけお答えください。

1. 結婚している 2. 結婚していないがパートナーと暮らしている
3. 離別 4. 死別
5. 未婚

F5 あなたにはお子さんがいますか。成人しているお子さんや別居しているお子さんも含めて1つだけお答えください。

1. いる 2. いない

今後の調査の参考とするため、ここからは今回の調査についておうかがいします

問A 今回の調査の答えやすさはどうでしたか。1つだけお答えください。

1. 答えやすかった 2. 答えにくかった
3. どちらともいえない

問B 今回の調査の分量はどうでしたか。1つだけお答えください。

1. 少ないと感じた 2. 適当と感じた
3. 多いと感じた

問C 今回の調査への回答に要した時間はおよそどれくらいでしたか。1つだけお答えください。

1. 15分未満 2. 15～30分程度
3. 30分以上

問D 今回の調査にご回答いただいたのはどなた様ですか。1つだけお答えください。

1. 15分未満 2. 15～30分程度
3. 30分以上

ご協力いただき、ありがとうございました。

お手数ですが回答票を返信用封筒に入れ、11月28日（金）までに投函してください。